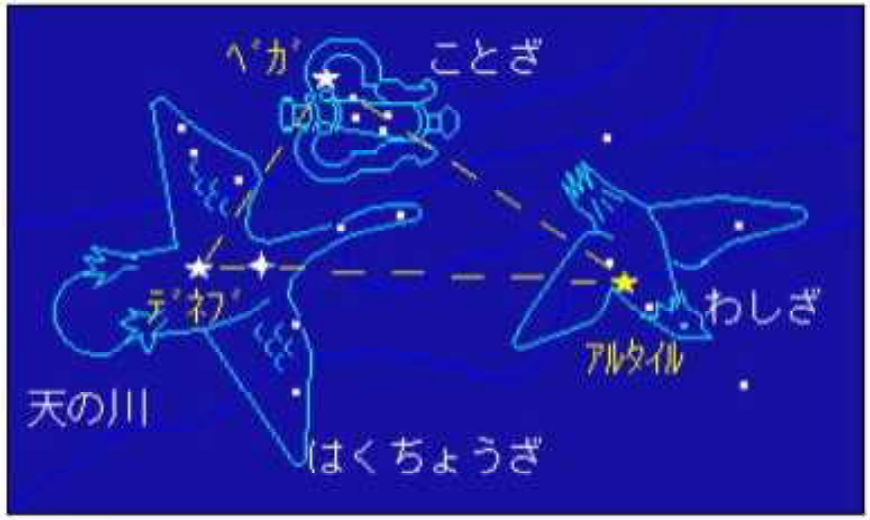
夏のせいざの観察

夏の夜の８時ごろ，頭の真上の空から東寄(よ)りの空にかけて，３つの明るい星が見られます。

天の川をはさんで，「ことざ」のベガと，「わしざ」のアルタイルがかがやいており，天の川の中ほどには，「はくちょうざ」のデネブが白くかがやいています。

この３つの星を結(むす)ぶと大きな三角形ができ，これを　夏の大三角といいます。



←東

星の明るさと色

星にはいろいろな明るさや色があります。

◆　星は，明るい星から順（じゅん）に，１等星，２等星，３等星，……というように分かれており，人間の目では，６等星ぐらいまで見ることができる。

◆　左の図は，夏の南の空の低（ひく）いところに見えるさそりざである。さそりざの赤い星・アンタレスは１等星である。

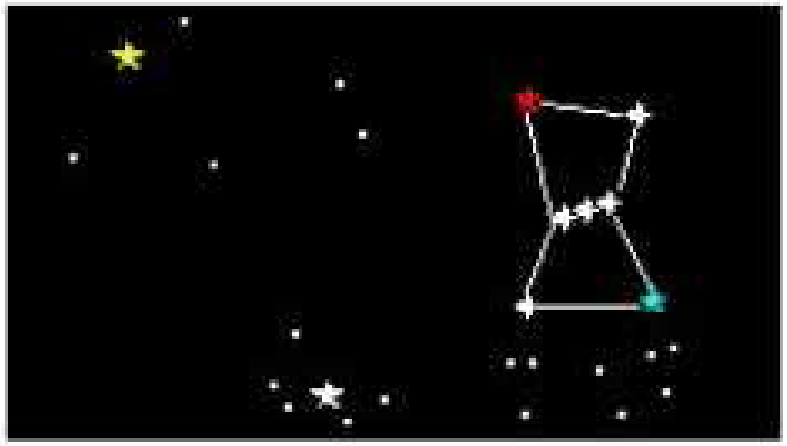
南

◆　夏の大三角の３つの星（ベガ，アルタイル，デネブ）も，１等星である。

冬のせいざの観察

今度は，冬の代表的(だいひょうてき)なせいざをかんさつしよう。

冬の代表的(だいひょうてき)なせいざである「オリオンざ」には，２つの１等星と５つの２等星があります。２つの１等星の一方は赤くかがやき，もう一方は青白くかがやいています。



←東　　南→

冬の大三角

冬の夜，オリオンざの近くに，ひときわ明るくかがやく星が見えました。

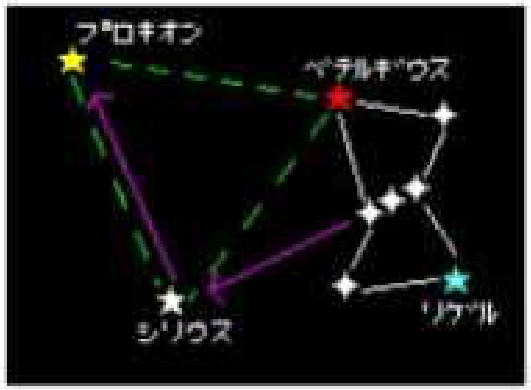
◆　オリオンざの三つ星を東にのばすと，おおいぬざのシリウスが見えます。

　シリウスから上に上がると，こいぬざのプロキオンが見えます。オリオンざのベテルギウスと合わせて，３つの１等星を結(むす)ぶと，きれいな三角形になります。

◆　この３つの星を結(むす)んでできる三角形を，冬の大三角といいます。

◆　おおいぬざのシリウスは，すべての星の中でいちばん明るい星として有名です。

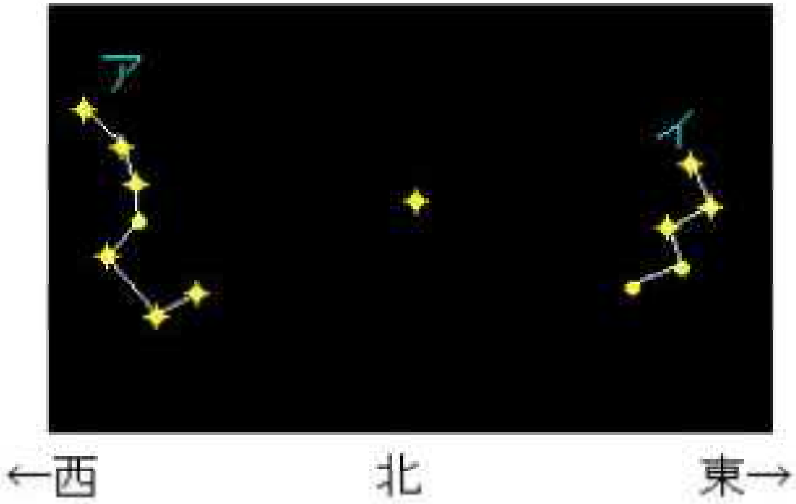
冬の大三角



←東　　南→

北の空の観察

よく晴れた夜，北の空に，ひしゃくの形をした「北と七星（ほくとしちせい)」やWの字の形をした「カシオペヤざ」が見えました。



左の図で，

ア　北と七星

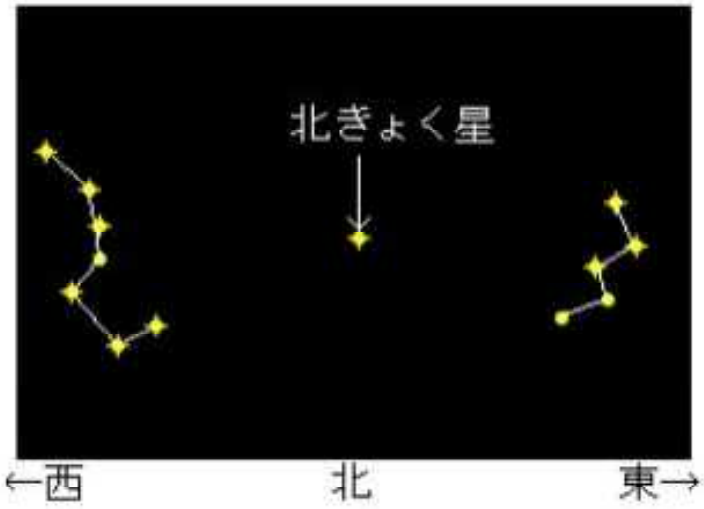
イ　カシオペヤざです。

北きょく星

◆　「カシオペヤざ」と「北と七星」との間で，いつもほぼ真北の空にかがやいている星を「北きょく星」といいます。

　北きょく星は，北の空で，いつも真北に見えます。

　大むかしの人は，旅をしたり，船の進路を確(たし)かめたりするときに，よく北きょく星の位置(いち)をさんこうにしました。



北と七星

「北と七星」つて，星ざの名前なのかな？

ふつう，せいざの名前は「おとめざ」「オリオンざ」のように，名前の最後に「ざ」がついています。

「北と七星」は、おおぐまざにある７つの星。

「北と七星」の「と」は，「斗」という漢字を使います。これは，水や酒をくむための道具である「ひしゃく」を表す漢字です。

つまり，北と七星というのは，北の空にあるひしゃくの形をした７つの星，という意味なのです。

「おおぐまざ」のくまのしっぽにあたるところの７つの星を特に「北と七星」とよびます。とても見つけやすい星ですので，みんな探してみましょう。

せいざ早見の使い方

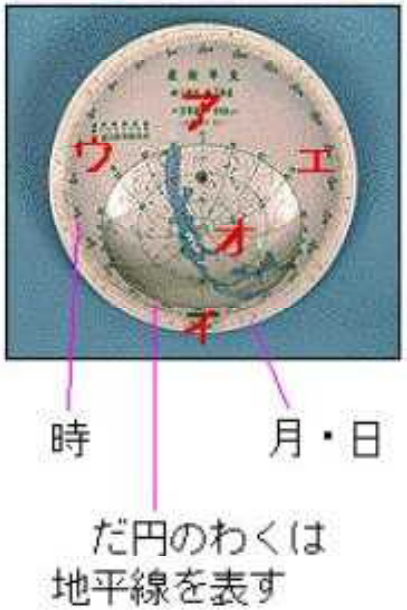
ある季節のある時こくに，どんな星やせいざが見られるのか，調べることができます。

ア―北　イ―南　ウ―東　エ―西　オ―北きょく星

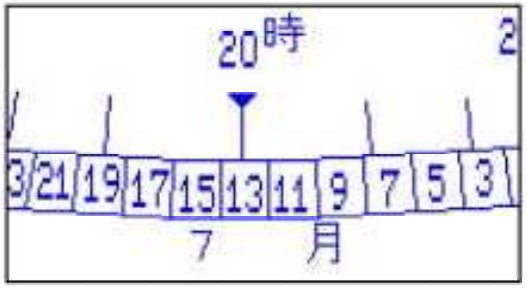
手順

1　月日の目もりと時こくの目もりを合わせる。

2　見ようとする方位の文字が手前にくるようにして持ち，夜空にかざして，実さいの星と比べる。

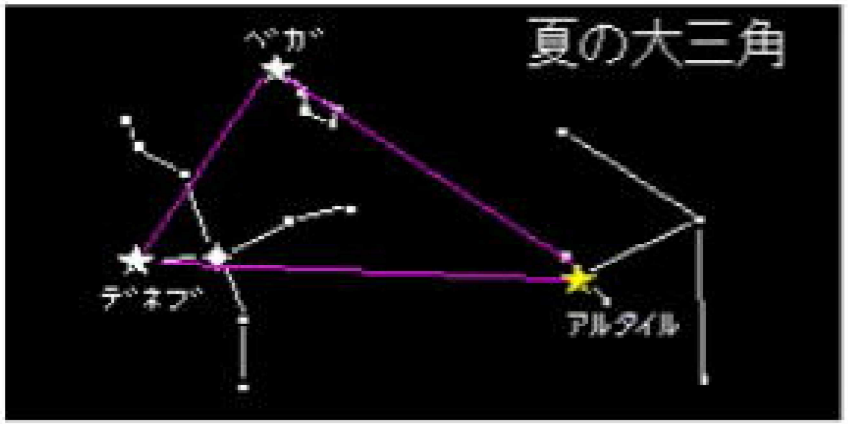
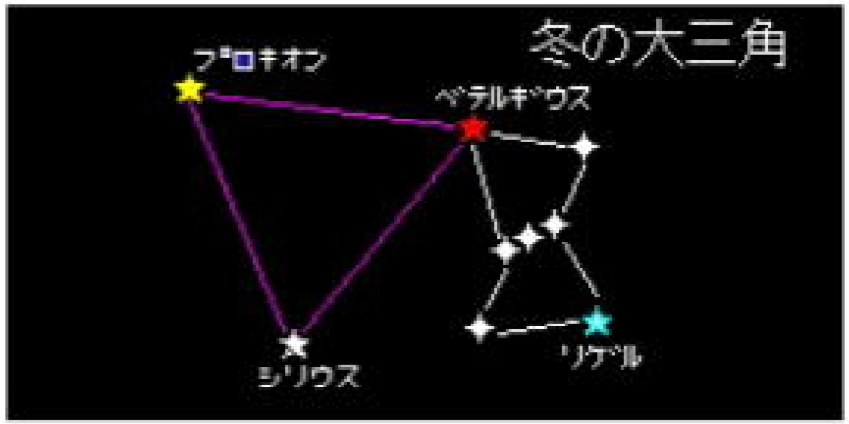


右の図は，７月13日20時（午後８時）の空を見るときの，目もりの合わせ方です。



夏と冬のせいざのまとめ

むかしの人は，星をいくつかのまとまりに分け，いろいろな形に見立てて，名前をつけた。これを「せいざ」という。

星は，明るい星から順(じゅん)に，１等星，２等星，……と分かれており，６等星ぐらいまでは見ることができる。

北きょく星は，いつも真北にあり，北と七星やカシオペヤざをめやすに見つけることができる。